
四季の庭・2 ～南呂の縁側～

本宮蒼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

四季の庭・2　　（南呂の縁側）

【Nコード】

N2977U

【作者名】

本宮蒼

【あらすじ】

子供のグダグダ会話文

「あっちーなあ。なあ、何でおまえんちクーラーつけねえの？」

「うっせ、文句あるなら帰れ、今すぐに」

「やだよ、家にいたらかーちゃんが宿題やれってうるせーし」

「あー、そういえば宿題どんだけ終わった？」

「聞くだけムダだろ。つかお前はどうかんだよ」

「まだ二週間あるんだから余裕だろ」

「……あとで泣いても知らねえぞ」

「おめーに言われる筋合いは無い」

「あー、それにしてもあっつい」

「風吹いても熱風だもんなあ……。これでも太陽ががん当たってる午前中よかましなんだけど」

「あー、あっつい」

「あーうっとおしい、ゴロゴロすんな、邪魔くせえ」

「ばっか、縁側の上ひんやりして気持ちいいんだぞ。お前も寝れば？」

「じゃ動くな、止まれ」

「そうしたいけどな、同じところでじっとしてると、あっちゅう間にじめっとして気持ち悪い温度になるんだから、しょうがないだろ。」

文句は縁側に言え」

「……踏むぞ」

「お、やるか？やるか？」

「……………あっついなー」

「あっついなー」

「あ、そういえばスイカ冷えてるんだった」

「マジで！？　そういう事は早く言えよ」

「つつても、切ったスイカだけだな。それにオレの分しかねえし」

「何言ってるんだよ、親友だろ？」

「そんなもんになった覚えねえよ。まあいいか。宿題見せろよ」

「無理だ。それにしても、お前のかーちゃん、最高だな、スイカおやつに用意するなんて」

「いんや、ご褒美とか言ってたな」

「ご褒美？ 何の？」

「何って……。あ！」

「何だよ。顔青いぞ」

「草むしりしろって言われてたんだった！」

「ふうん、草ずいぶんボーボーだけだな」

「お前のせいだ。お前が来たせいですっかり忘れてた」

「人のせいにすんじゃねえよ。ジコセキニンだろ、ジコセキニン」

「……っあゝ」

「そんな事よりスイカ食おうぜ！」

「殴っていいか、わりとマジで」

「じゃあ、今から草むしりするか？ しっかり見届けてやるぞ。ここで」

「ゝ、まあ、しょうがないよな。腹が減っては戦は出来ぬというし！」

「何だかよくわからんが、頑張れ。とりあえずスイカもってこい。……ん？」

「どうした？」

「いや、なんか、玄関の方から音がしたような」

「ただいまゝ」

「げ、母ちゃん！」

「よし、おれは帰るから、後は頑張れ！」

「お前なんてぜってえ親友じゃねー！」

(後書き)

四季の庭その2。夏のひととき

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2977u/>

四季の庭・2 ～南呂の縁側～

2011年10月9日05時11分発行